

累計20万部突破！

宝島社 新刊案内

## 大好評！「ZUAN LOVE！」シリーズ第2弾

レトロでかわいい！「図案スケッチブック」がインテリアトートになって登場 11/17発売



文具メーカー、マルマンの「図案スケッチブック」柄の付録が人気の「ZUAN LOVE!」シリーズ第2弾が登場。今回の付録は、黄色と深緑のデザインが印象的な図案スケッチブック柄のインテリアトートと、マルマンの創業100周年を記念したイラストが入った小物入れ2個の3点セットです。デスクまわりの文具整理、リビングや玄関先の細々したものの収納など、マルチに大活躍！ おうち時間を楽しくしてくれるアイテムです。

誌面では、愛用者による図案スケッチブックのこだわりや、マルマン100周年記念限定商品の紹介など、読みごたえたっぷりの内容となっています。

「人気文具付録」シリーズ

宝島社では「クレパス柄フラットペンケース」「モノ消しゴムガジェットポーチ」など、ロングセラーの「人気文具」を付録にしたムック本を展開。シリーズ累計50万部を突破しています。

『ZUAN LOVE!「図案スケッチブック」インテリアトートBOOK』

価格：本体1980円＋税

発売：2020年11月17日

## マルチな使い方で、家じゅうで大活躍！

◎ インテリアにちょうどいい大きさで、ポケットたっぷりの大容量 ◎

小物入れ(約)高さ8×直径8cm



Front

Back

トート(約)  
幅26.5×高さ17×マチ15cm

便利な両サイドポケット



ランドリ— 洗濯グッズをまとめて♪

◎ かわいい小物入れ2個付き ◎

イラストレーター 浅野みどりさんによる  
マルマン100周年記念イラスト入りペンやハサミなど長さのあるものも  
すっぽり入る内ポケット付きA5サイズ程度の薄手のものなら  
外ポケットに入ります

リビング よく使うものをひとまとめに♪



玄関先 スリッパや靴べらの収納に♪

◇マルマンは今年で創業100周年！

大正9年(1920年)に創業、2020年に100周年を迎えたマルマン。「子どもたちが夢を思い切り描けるように」との想いから発案された「図案スケッチブック」は、累計販売数 9千万冊以上の大ヒット商品となり、子どものみならず、イラストレーターなどのクリエイターにも愛され続けています。

# あれもこれも集めたいくなる！“人気文具付録”シリーズ

## 「図案スケッチブック」のポーチ



『ZUAN LOVE!』  
第1弾は図案スケッチ  
ブック柄のポーチ♪

『ZUAN LOVE! 「図案スケッチブック」がある毎日。』  
価格：本体1890円＋税 発売：2020年4月16日

## 「純喫茶ペンてる」のペンケース



「文具女子博2019」  
限定のギフトボックスが  
かわいいペンケースに！

『純喫茶ペンてるへようこそ。』  
価格：本体1780円＋税 発売：2020年6月30日

## 「サクラクレパス」の定番文具のペンケース&ポーチ！



「クーピー」そっくり！  
収納上手な  
すぐれものポーチ

まるで「クレパス」！  
使いやすいフラットペンケース



『レトロでかわいい！ サクラクレパスの文具たち』  
価格：本体1890円＋税 発売：2019年9月28日

『サクラクレパスの文具たち じゃばらポーチBOOK』  
価格：本体2190円＋税 発売：2020年10月15日

## 半世紀ブランド！「モノ消しゴム」柄のガジェットポーチ

誰もが馴染みのある消しゴムの「MONO」が  
そっくりそのままの形でガジェットポーチとして登場！

持ち運びに悩むAC  
アダプタやケーブル  
類もすっきり収まる！

収納力抜群！  
がばっと開くので  
使いやすい！



『MONO文具BOOK』  
価格：本体1890円＋税 発売：2020年8月31日

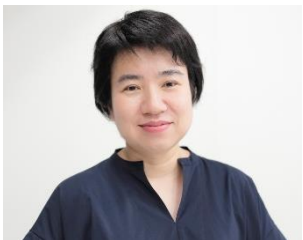
## 文具シリーズを手掛ける編集者 ～きっかけは「ノート術」の企画から～

### ▼文具の魅力とは？

2016年頃、女性たちの間で手書きノートや手帳がブームになり、関連ムックをいくつか企画しました。それまで男性や子ども向けのイメージが強かった「文具」ですが、その頃から「文具女子」と呼ばれる女性のための、**かわいくて便利な文具が大きく盛り上がり**っていったように感じます。ちょっとしんどい仕事でも勉強でもお気に入りの文具がそばにあるだけで、毎日を楽しく、ご機嫌に過ごせる。それが文具の最大の魅力だと思います。

### ▼人気の理由

女子向け文具の盛り上がりを受け、2019年に「クレパス柄フラットペンケース」を付録にしたムックを企画。その反響の大きさに、子どもの頃から愛着のある、おなじみの文具デザインの雑貨の可能性を感じました。**文具女子と呼ばれる層の中心は、実は、自分と同世代の40代の女性たち**。どこか懐かしく、そして今も続いているロングセラー商品のデザインは、我々世代には大きな魅力です。



宝島社  
ムック局・第2編集部  
佐藤 瑞恵(さとう・みずえ)